

北前船の歴史的意義と魅力

～北前船遺産を活かした地域振興の可能性～

令和3年7月10日（土）

高野 宏康（小樽商科大学）

1. はじめに

- ・自己紹介。出身地：石川県加賀市橋立町。曾祖父以前は北前船の船乗り。
- ・研究分野：北前船学、近現代史、地域資源論。
- ・全国の北前船寄港地・船主集落の調査＋北前船遺産を活かした地域活性化事業。

2. 北前船の歴史的意義と魅力

(1)「北前船」とは何か？ 「北前船」をめぐる様々な誤解。

呼称、船型、船主の出身地、活動範囲、活動期間など。

(2)北前船の活動。江戸時代と明治以降、2度のピーク。

近年、北前船の近代性が注目。連続面と非連続面。地域の近代化に果たした役割。

(3)北前船と地域。北海道、東北、北陸、山陰、瀬戸内海。

それぞれ共通点と特徴あり。各地に様々な北前船のあり方が存在。

(4)北前船と新潟県域。日本遺産認定地（新潟市、長岡市、佐渡市、出雲崎町、上越市）

上越市。北前船寄港地としての直江津の特徴。構成文化財（8件）

例：旧直江津銀行。北前船の近代性を示す特徴的な構成文化財。活用の可能性。

3. 北前船遺産を活かした地域振興の可能性

(1)日本遺産「北前船」の意義と課題。文化財と観光まちづくりの連動。

認知度向上、具体的な地域振興の実践。認定自治体間の広域連携。ガイドの重要性。

(2)認定自治体の取り組み

①文化財関連

- ・新資料の発見、展示（九谷焼、船絵馬など）、図書館連携、など。

②各種の地域振興事業

- ・情報発信。小樽文化遺産ポータル、PV作成、Webセミナー等。

- ・学生の活動（日本遺産による小樽の活性化チーム、等）。
- ・フェリー交流事業（加賀市ー小樽市）
- ・商品化（菓子、雑貨、水産加工品など）、
- ・食文化（コーヒー糖、婚礼料理の再現）
- ・歴史的建造物の活用（宿泊、ショップなど）。

(3)観光庁、文化庁の実証事業

誘客多角化事業（R2）、域内連携促進事業（R3）など。

日本遺産を活かす様々な取り組みが全国的に展開。

積極的な自治体との格差大。戦略、コーディネートが必要。

4. まとめ

(1)北前船の歴史的意義と魅力。地元では「あたり前」の再発見。

日本遺産「北前船」の認定。地域のブランディング、シビックプライドの醸成。

(2)地域のルーツ、各地との「つながり」の意義。ポスト近代社会のヒント。

北前船の近代性。江戸～近代の連続性、非連続性の両面に注目。

(3)文化財の調査研究と観光まちづくり、教育等の連動。

現代的な北前船学の必要性。